

集める・伝える・活かす

災害メモリアルアクションKOBE

# ACTION 2018

## KOBEのことば

参加無料

### 活動報告会

日時 **2018.1.6 [SAT]**  
**10:00 → 13:00**

会場 阪神・淡路大震災記念  
**人と防災未来センター**

これまで「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸(1996～2005)」,そして、その教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアルKOBE(2006～2015)」を実践してきました。

2016年からこの先の10年を見据え「KOBEのことば」をキーワードに「災害メモリアルアクションKOBE」という取組みを開始しました。「KOBE」とは、阪神・淡路大震災の被災地全体と、災害の影響を受けたひと、そして災害後まちのために活動したひと、すべてを表現しています。災害メモリアルアクションKOBEでは大震災を直接経験していない若い世代の人たちが、災害を経験した人々へのインタビュー、アンケート、交流事業などを企画・活動し、「KOBEのことば」を集めます。そして、そこから何を受けとり・何を伝えていくべきかを考えながら、「KOBEのことば」を活かす取組みをします。

主催 : 人と防災未来センター、京都大学防災研究所  
企画 : 災害メモリアルアクションKOBE企画委員会  
後援 : 兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会/朝日新聞社神戸総局/読売新聞神戸総局/毎日新聞神戸支局/産経新聞神戸総局/神戸新聞社/NHK神戸放送局/ラジオ関西/神戸学院大学/明石工業高等専門学校/関西大学社会安全学部

### プログラム

司会：松蔭高等学校 放送部

**10:00** **開会挨拶**  
災害メモリアルアクションKOBE 企画委員会委員長  
人と防災未来センター 震災資料研究主幹  
京都大学防災研究所教授 牧 紀男

**10:10** **活動発表**  
発表：①兵庫県立舞子高校  
②国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°  
(明石高専防災団) 3年生チーム  
③国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°  
(明石高専防災団) 4年生チーム  
④神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ  
⑤兵庫県立大学「ほっとKOBE」  
⑥関西大学社会安全学部 近藤研究室 チームCREDO  
⑦関西大学社会安全学部 近藤研究室 チームSKH

**12:05** **公開サロン**  
**「伝えたいことが伝わる伝え方とは？」**  
ファシリテーター : ひょうご震災記念21世紀研究機構  
研究戦略センター 主任研究員  
高森 順子  
グラフィックファシリテーター : TAGAYASU 鈴木 さよ  
サロン参加者 : 参加団体の学生等  
(当日参加している方々全員)

**12:55** **講評・閉会挨拶**  
災害メモリアルアクションKOBE 企画委員会顧問  
人と防災未来センター長 河田 恵昭

※敬称略



公開サロンテーマ：

## 伝えたいことが伝わる伝え方とは？

私たち学生は自分たちの活動を身近に感じてもらいたいと日々その「伝え方」に試行錯誤を繰り返しています。一方で、私たちは被災体験を豊かに語る人、ふとしたときにつぶやく人、直接は語らない人など、様々な人とことばに出会い、その「受け取り方」も考え続けてきました。

今回の公開サロンでは、自分たちの活動について、いかなる方法であれば伝えたいことが伝わるのか、語りや体験学習など、具体的な方法も踏まえながら考えます。それとともに、「伝わった」と手応えが感じられるときはどんなときなのかを共有し、受け手との関係についても考えます。



## 神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ 「阪神・淡路大震災の教訓って、伝わってる？」



阪神・淡路大震災から23年を迎えます。当ゼミでは、昨年度から、「大震災の教訓って？」という素朴な疑問から、このプロジェクトに参加しました。今年も引き続き、このテーマで取り組みます。まず、「うちの大学生たちの意識は？」と

足元を見つめ直すために、全学600人近くのアンケートを実施、分析しました。現場でのインタビューも実施します。

## 関西大学 社会安全学部 近藤研究室



### チーム CREDO

きっかけはKOBÉです。ご年配の方から、「大津波が来たら、その時はあきらめる」、そんなことばを受け取りました。災害が起きる前に心が折れてしまっているネガティブな状況を変えたい。そこで、前向きなことば(CREDO)を集める活動を始めました。すてきなことばを共有して、みんなのチカラを向上させていきましょう！



### チーム SKH

こどもたちのことばで、こどもたちに防災を伝えるプロジェクト、それが「真陽こども放送局(SKH)」です。活用するメディアは、お昼休みに親しまれている校内放送。毎週10分という短い時間ですが、思いを込めて伝え続けています。活動を始めて4年度目、ついに通算100回を達成しました！ KOBÉ発の新機軸です。

ついに通算100回を達成しました！ KOBÉ発の新機軸です。

## 兵庫県立舞子高校



私たちは、災害は身近に存在するということを伝えるために活動しています。防災を学んでいる私たちは、普段の生活の中で災害を身近に感じることは多くあります。近々発生するとされている南海トラフ巨大地震に注意が必要です。注意が必要だからこそ災害はいつも身近にあるということを発信していきます。

必要だからこそ災害はいつも身近にあるということを発信していきます。

## 国立明石工業高等専門学校 D-PRO135° (明石高専防災団)



### 3年生チーム

私たちD-PRO135°二期生は、兵庫県明石市東二見で防災街づくりのサポートをしています。瀬戸内海に面した東二見では、南海トラフ地震の際、最大2mの津波が予想され、2017年の台風第21号で高波による浸水もありました。このような問題点をヒア

リングなどを通して、地域の方と共に考えていく活動をしています。



### 4年生チーム

私たちD-PRO135°一期生は、未災者である子供たちの防災意識を向上すべく、防災ゲームを広めてきました。そして今年度は新たに、自分たちと同世代の神戸高専の学生に対して、防災の

授業を行いました。授業は、避難所運営をテーマとしたゲームを元に行われ、被災者の方々の体験談もゲームに反映されました。

## 兵庫県立大学 「ほっとKOBÉ」



ほっとKOBÉは、復興公営住宅が建ち並ぶHAT神戸灘の浜団地において、地域コミュニティ形成支援を目的として活動を行っています。団地では、お互いの顔や名前を知らないという住民も多く、人と人とのつながりが薄いことが問

題となっています。そこで、小さい子どもから高齢者まで、幅広い世代の誰もが気軽に集え、「ほっと」できる場所を提供し、世代間の橋渡しをする役割を担っています。

### お問い合わせ：

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター事業部普及課  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2 西館6階  
Tel : 078-262-5060 Fax : 078-262-5082

Email : hitobou-fukyuuka@dri.ne.jp

HP : [http://www.dri.ne.jp/memorial\\_action\\_kobe](http://www.dri.ne.jp/memorial_action_kobe)

本研究は京都大学防災研究所共同研究(平成29年度一般研究集会29K-09)の成果によるものです。